

第21回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

- 日時 令和6年10月10日（木）10：00～12：00
- 会場 市民交流プラザふくちやま3-3会議室（オンライン会議併用）
- 議題
 - (1) 京都府北部の介護・福祉人材確保事業について
 - ア 京都府北部福祉人材養成システムについて
 - イ 京都府介護・福祉人材確保総合事業について（北部地域関連）
 - (2) 京都府北部福祉人材養成システムの進捗について
 - ア 京都府北部福祉人材養成システムに係る3拠点の取組状況について（現任者研修・養成校・実習センター）
 - イ 京都府北部7市町の取組状況について
 - ウ 北部福祉人材カフェ運営事業等の取組状況について
 - (3) 情報提供・意見交換
 - ア 北部フィールドワーク事業の事例報告について

●説明・協議の概要

(1) 京都府介護・福祉人材確保総合事業について

(説明：事務局)

- ・京都府介護・福祉人材確保総合事業の概要を説明

(1) 京都府北部福祉人材養成システムの進捗について

ア. 京都府北部福祉人材養成システムに係わる3拠点の取組状況について

(説明：現任者研修施設)

- ・今年度における各研修の実績については、以下のとおり。

研修名	参加者数
介護福祉士実務者研修	29名
チームリーダー研修（与謝野町会場）	25名
OJT担当者研修	23名
チームリーダー研修（振り返り研修）	21名
外国人の受入れに係るスタッフ研修	20名
新人（初任者）職員研修	13名
福祉専門職記録の書き方研修	10名

- ・介護福祉士実務者研修の受講者数はコロナ禍前後で変化が見られ、コロナ前（H27～R元）は60名程度、コロナ後（R2～）は30名程度。京都市内や県外の研修と競合し、受講者が減少していると推測している。
- ・昨年度までは、京都府からの補助金があったが、今年度から打ち切りになり、加盟施設の年会費だけでは回らないため、積み立てていた預金を取り崩して運営している状況である。このような現状のため、今後の研修運営を維持することが難しい。
- ・福知山市の介護福祉士実務者研修受講料補助の要件は、現任者研修施設での受講である。他市町も同様の取組をお願いしたい。

(説明：介護福祉士養成校)

- ・介護福祉士の養成施設数は、全国的に年々減少しており、京都府内では4校のみ。
- ・入学者の状況は、コロナ禍以降は10名台の入学者が続いており、定員の半数にも満たない状況
- ・2024年度の入学者は15名（舞鶴市10名、福知山市2名、綾部市1名、宮津市2名）で、内訳は、高校卒11名、一般1名、離職者訓練3名。
- ・近年、全国の養成校において、外国人の入学者が増加傾向にある。今後は、外国人材にも北部の魅力発信が必要ではないか。

(説明：実習施設)

- ・資格実習、出前講座、中・高校生ボランティアの受入、大学生の見学受入等を実施した。
- ・実績はオンライン活用を推進した令和2年度の500名と比較すると、令和5年度は294名と実績数が減少したが、手厚い研修を心掛け、北部地域を好きになってもらえるような取組に移行した。
- ・実習は学生間で口コミによる広がりがあり、募集後すぐに定員に達することが多い。京都府事業で学生にインターンシップの交通費を補助しているため、京都市内や府外の学生も増えている。
- ・当法人におけるIターンでの定着率は5年目以降で離職が増加する傾向にある。地元に戻り、地元で貢献したいという職員が一定数いるため、Uターンに繋がるプログラム作成も検討しているところ。

イ. 京都府北部7市町の取組状況について

(説明：福知山市)

- ・外国人材への支援は定住促進にも繋がるため、新たに「外国人介護人材定着支援金」を創設。具体的には、5年間で最大60万円を外国人材に補助するもの。

(説明：京丹後市)

- ・定住促進奨学金返還支援補助金を令和3年度から実施。若者の人材確保・定着のため、大学及び大学院等の在学中に借り入れた奨学金の返還相当額を支援しており、月額3万円（年額36万円）を上限に10年間最大で360万円を補助するもの。令和5年度実績は169名。実績額は3,104万円。
- ・定住促進空き家改修支援事業補助金は、移住された方が使用する空き家のリフォーム工事費を補助するもの（平成28年度から実施）。京丹後市の移住促進計画策定地区にある物件が対象で、補助額は最大90万円（トイレの水洗化をした場合は最大140万円）。令和5年度実績は19件、実績額は3,158万円。
- ・39歳以下のU・Iターンされた方の住宅確保支援として令和4年度から若者U・Iターン住宅所得等応援補助金を実施。住宅取得の場合は最大15万円の補助。リフォームの場合は最大30万円を補助。令和5年度実績は、住宅取得7件、リフォーム4件。実績額は225万円。

(質問：京都府)

- ・京丹後市の定住促進奨学金返済支援補助金の対象はどうか。

(説明：京丹後市)

- ・個人向けに補助する事業である。

(質問：京都府)

- ・補助金を受けた方のうち介護福祉事業所への就職はどうか。

(説明：京丹後市)

- ・手元に資料がない。(会議後確認：4人(京丹後市長寿福祉課が把握している人数))

(説明：綾部市)

- ・7月29日に綾部市で京都府北部7市町福祉人材確保定着合同会議を開催し、人材確保に係る事業実績、課題について共有した。意見交換では、介護ニーズの高まりが見込まれる中、介護ロボット等の活用により サービスと質の向上を図りつつ、職員の負担軽減に伴う生産性向上の取組について推進する必要性を確認した。

ウ. 北部福祉人材カフェ運営事業等の取組状況について

(説明：京都府)

- ・北部福祉人材カフェ運営事業等の取組状況について説明。

(質問：介護福祉士養成校)

- ・大学フィールドワークに関連した就職はどうか。

(説明：京都府)

- ・事業に参加する学生は1・2回生が多く、正確な数字として把握できていないが20名を超える学生が就職している。

(質問：舞鶴市)

- ・大学実習受入事業について、暮らしと福祉の仕事を併せた魅力発信と多様な人材の参入促進と記載があるが、具体的な取組はどうか。

(説明：コーディネーター)

- ・実習プログラムに町づくりや移住の要素を取り入れ、学生が北部地域での生活をイメージできるよう取り組んでいる。

(質問：舞鶴市)

- ・介護福祉士養成校に外国人留学生を誘致するにあたり、北部地域だけでは想定する人員を充足できないため、日本語学校の学生向けの北部ツアーを企画する等、北部地域で学び・就職する取組を検討いただきたい。

(説明：京都府)

- ・南部地域では、日本語学校の学生が福祉施設でアルバイト就労するケースが増えている。外国人留学生向け北部地域の魅力発信については、他部局との連携も含め、検討していきたい。

(2) 情報提供・意見交換

ア. 北部フィールドワーク事業の事例報告について

(報告：社会福祉法人松寿苑 理事 田中良樹)

- ・報告の概要は次のとおり
 - 綾部市における人材確保の状況について
 - 事業を取り組むきっかけと意義について
 - 多機関・団体の連携によるプログラムの作成について
 - ・受入のコンセプトは地域におけるリアルな体験である。
 - ・採用したい理想のペルソナ像を基に、学生に対して効果的なメッセージの発信や受入側の意思統一に取り組んでいる。
 - ・福祉分野だけでなく、医療や地域との繋がりをプログラムに盛り込んでいる。
 - 福祉の学び以外にプログラムに取り入れた内容について
 - ・プログラムには、綾部市での暮らしの要素を取り入れるため、高齢化率の高い限界集落への訪問や地域住民との交流を含めている。
 - ・地域の食を楽しむことも重要であると考え、地元の食材を使った郷土料理を昼食とした。
 - 学生受入で得たもの
 - ・受入にあたって若手職員へのコーチングを行った結果、仕事に対する向き合い方や将来のビジョンを分析することに繋がった。
 - ・一過性の受入で終わらせないように継続して大学と連携し、学生のフォローアップにも関わっていききたい。

(意見：コーディネーター)

- ・多機関連携や町ぐるみのプログラムは、学生だけでなく、大学教員からも好評を得ている。

(意見：京都府)

- ・今後は、大学フィールドワーク事業を通して、各地域でプログラム作成に関わる人材を育成していきたい。また、京都府看護協会、北部医療センターにご協力いただき、医療分野での体験も取り入れていきたい。

(意見：京都府老人福祉施設協議会)

- ・新規福祉人材養成事業（離職者訓練）について、長年使用していた会場が来年度閉鎖されると聞いたが、開講予定はどうか。様々な課題があるとは思いますが、事業継続を希望する。

(説明：京都府)

- ・引き続き実施できるよう今後予算協議に対応していく。

(意見：京都社会福祉士会)

- ・北部フィールドワークについて、様々な要素を取り入れて実習プログラムが作成されていることは素晴らしいことだと感じる。このような取組を通して、関係機関・団体が協働して課題に取り組んでいく必要があるのではないかと感じる。我々も学生の受入側として頑張らないといけないと感じた。